

感染症の予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（型不明）				
年齢及び性別	30代・男性	職業	団体職員		
住所	津市				
発病年月日	令和6年7月4日				
診断年月日	令和6年7月10日				
<p>（患者発生の経過）</p> <p>7月4日 軟便の症状がみられた。</p> <p>7月6日 下痢、血便、倦怠感の症状がみられたため、鈴鹿市内の医療機関を受診し、入院となった。</p> <p>7月10日 7月6日の検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。</p> <p>現在、患者は退院し、快方に向かっています。</p>					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（津保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
患者	22	26	29	34	11
保菌者	13	11	23	23	4
計(感染者)	35	37	52	57	15
<p>※2024年1月1日～2024年7月12日現在まで本件含む</p> <p>2024年内訳 患者：O157（5人）O103（2人）型不明（4人）</p> <p>保菌者：O157（2人）O26（1人）O146（1人）</p>					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					